

① 藤原東演 著 Jeffrey Hunter 訳
『禅ってなんだろう=What Is Zen?: 英訳付』

(淡交社)

七転び八起きの縁起物として親しまれている達磨さんや、とんちが得意な一休さんは禅僧なんです。有名な禅僧の禅問答が多数紹介されていて、楽しく読める一冊です。座禅は知っていても禅なんて聞かれるとごまってしまう日本人の方々、外国人に話しができるように本書で勉強してみませんか。さらに、「禅」の基本が和文と英文の対訳で書かれていますので、日本語と、英語が同時に学べる画期的な入門書です。

188.8-Fuj (N. K.)

③ 平野暉雄 著

『石橋』

(自由国民社)

日本全国にある石橋150(九州100、四国50)がグーリア写真と解説でわかりやすく紹介されています。

写真を見て楽しみ、解説を読んでその土地の歴史や風土に触れ、現地に行って石橋の素晴らしさに感動して欲しいというのがねらいです。紹介されている各々の橋がいかに地域の風土に根付き、そこに暮らす人々の生活を支えている、いかに大切なものかということがわかります。

748-Hir (S.S.)



② 卯城祐司 著
『図解で納得! 英語情報ハンドブック』

(ぎょうせい)

本書は英語にまつわる様々な情報を、分かりやすく解説しています。Chapter 1~Chapter 9の中には合計100のテーマ(Q)が、それぞれ見開きで図と共に構成されています。そのテーマは、いわゆる語学としての英語ではなく、教科書には出て来ないような興味深い物ばかりです。Q33の「英語に聞こえる日本語」には、思わず笑いました。本書を読んだからと言ってTOEICのスコアは上がらないでしょうが、確実に英語への理解は深まります。勉強に疲れた時にも、気軽に読んでみて下さい。英語に関心がある全ての人にイチオシの一冊です。

830.4-Ush (T. F.)

④ 北康利 著
『蘭学者川本幸民: 近代の扉を開いた万能科学者の生涯』

(PHP研究所)

本書は、幕末動乱の時代を生きた蘭学者で、平賀源内にも比すべき存在でありながら、その後、殆ど忘れ去られた川本幸民の生涯を扱っています。「蕃書調所」の化学部門主任教授を務め、医学中心の蘭学の風潮の中で自然科学全般の基礎である物理化学を重視し、蒸気船・精糖・電信・鉱山開削・兵器など数多くの欧米の技術を日本に紹介しました。また、「蛋白」「ブドウ糖」「合成」「化学変化」などの言葉を数多く考案した人です。

幕末という激動の時代に、たゆまぬ努力を続けて幾多の逆境を乗り越えた彼の人生は勿論のこと、彼のひたむきな知的探求心に感銘を受ける本です。

913.6-Kit (F.O.)